



# 高パフォーマンスの短期不安定ファンド

**短**

期的には儲かっているような錯覚を起こすが、中長期で見れば損失を抱えることが多い。前回はその理由について、いくつかのケースを通じてみていただいた。ただし、ここで主張したかったことは、「短期売買で一喜一憂しなさんな」といった浅薄な道徳律ではない。

実際に運用されており、誰でも容易に買える金融資産の中には、相当の歴史を持ち、かつ途中でのアップダウンが極めて大きいにもかかわらず、通期で見れば運用成績がとて高いという一連のファンドを見いだすことが可能だ。

現在、運用中の追加型株式投信はざっとみて2500本(確定拠出型などを含む)。これらの中で5年以上も前から運用されている一群のファンドで、通期でも非常に高いパフォーマンスを挙げている例が少なくない。

最近でこそ「新興国ファンド」が一つの流行であるが、実は、この手の期待される途

上国に対して集中投資するタイプのファンドはすでに10年程度前から運用されているのだ。

アジア地域への投資ファンド、旧東欧世界の株式への投資ファンド、あるいはイスラム圏への投資ファンドの中には10年前後の歴史を持つているものが少なくない。下表に示したとおりだ。

一時、ファンドの数が多すぎるとして、「資産規模の小さいファンドは整理」、「新規ファンドも増やさない」という方針が投資業界の一部から出されたことがあった。しかし、ファンドの数は一向に減らない。

一方では古参ファンドは資産額が少なくなると、償還しようにも受益者の承諾が得にくく、やはり新規ファンドが売りやすいという事情が働いているからだ。

一步引いて考えてみるとわかることだが、金融商品における「新」と、それ以外の多くの製品における「新」とは

その意味がまったく異なる。パソコンにしろ、テレビ、乗自動車にしろ、「新」というかぎりは必ずといっていいほど「これまでにはなかった利便性、まったくな意味での付加価値」が付されている。しかし、金融商品に限ってはさにあらずだ。

旧来の商品の内容の一部を、おためごかしでちよつぱり変えただけで「新」と銘打った「新商品」が登場する。多くの投資家は「新」と冠してあるだけで「今までにない」「今までより優秀な」と直感的に受け取りがちだ。だから、新規ファンドは買われがちであり、売りやすい。数あるチャイナファンドの個別商品についてそれぞれの特徴を、はたして個人にとつても意味のあるレベルで明確に差

別化することができるか。今回は、新興国ファンドの老舗とも言えるいくつかのファンドの過去のパフォーマンスをご紹介しようと思う。いずれも、通期での成績は絶対基準でもランキングで見てもとても高い。

しかし、左グラフで見るとおり実に見事なぐらゐのアップダウンを示している。前号では「単利の感覚で見てアップ率がダウン率を相当上回っている」と見えても、中長期では負けることが多い」と記したが、今回掲載したファンドが通期でも高い成績を示しているということは、短期的に見た上昇率が下落率を相当上回っていることを意味する。つまり、短期的に激しくアップダウンを繰り返す短期不安定ファンドの中にも、通期で高いパフォーマンスが期待できるファンドもままある、ということだ。

このことは前号の見解とは矛盾しない。

表1：新興国に投資するオーロラファンドを構成する主なポートフォリオ (野村アセットマネジメント運用) 2007年10月基準

ファンド名	当初設定日	基準価格 (円)	純資産額 (百万円)	期間騰落率 (収益分配金込み、%)						
				3カ月	6カ月	1年	2年	3年	4年	5年
オーロラファンド韓国投資ファンド	1997.6.16	30,518	1,861	5.4 (288)	26.7 (95)	50.5 (86)	99.1 (57)	200.4 (27)	210.4 (21)	248.4 (32)
オーロラファンド香港投資ファンド	1992.7.27	19,315	5,743	37.8 (21)	51.4 (35)	73.8 (45)	114.7 (42)	123.3 (54)	155.2 (36)	232.1 (36)
オーロラファンドタイ投資ファンド	1995.9.18	4,400	16,655	7.7 (202)	32.8 (72)	30.6 (122)	42.2 (190)	55.7 (417)	73.6 (237)	172.6 (73)
オーロラII東欧投資ファンド	1996.7.12	42,546	11,918	11.0 (152)	14.2 (149)	45.3 (95)	100.7 (54)	199.8 (28)	322.0 (7)	422.0 (9)
オーロラIIトルコ投資ファンド	1996.9.12	23,658	8,078	13.6 (127)	22.2 (115)	57.6 (65)	94.3 (62)	221.1 (22)	337.8 (3)	581.5 (2)
運用中の追加型株式投信全本数				2,388	2,305	2,120	1,819	1,600	1,447	1,277

(注) 騰落率の下のカッコは騰落率順位、騰落率は収益分配金の再投資を考慮せず

図1：ジェットコースター並みの乱高下を繰り返す新興国ファンド (3カ月ごとの期間騰落率)

